学校番号	105

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書道Ⅱ　（教育出版）						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道の幅広い活動を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。さまざまな書体の古典を学習することで、文字の発展の過程や時代背景など理解を促す。
・授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現（書作の意図・書写技術）と鑑賞を並行して扱い、評価については、各単元・授業毎の作品提出でおこなう。

2　学習の到達目標

・書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：書への関心・意欲・態度	b：書表現の構想と工夫	c：創造的な書表現の技能	d：鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 ワークシート ポートフォリオ	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5 6 7	五書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）の学習	・五書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）を、形臨中心に行い、書風の違いによる表現技術の習得と鑑賞する習慣を身につける。	○	○		○	a:五書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:各書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c:逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d:文字の成り立ちに興味を持ち、代表的な五書体の古典を知り、そのよさや美しさを味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
8 9	篆刻印材による姓名印づくり	・自分の名前調べ（各書体） ・名前の白文印の制作	○		○	○	a:名前の各書体調べを通じて書体の変遷について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:篆刻における分間布白を理解し、表現を工夫している。 c:印稿づくりにおいて小筆の弾力を活かし、硬筆等にも応用できる技法を身に付け表している。 d:様々な石や銅の印影を鑑賞し、そのよさや美しさを味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品
9 10 11	一・二字書創作 臨書作品制作	・草稿を作る ・全紙、半切に制作	○	○	○		a:参考古典、文字の選定など制作活動について関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。 b:作品の意図を明確にし、表現を工夫している。 c:作品の意図を明確にするための表現の技能を身に付け表している。 d:互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品

12 1 2 3	仮名（ひらがな）から漢字仮名交じりの書	・淡墨によるひらがな連綿、古筆臨書 ・今年の目標制作 ・漢字仮名交じりの書（ひらがなと漢字による表現）	○	○	○		a：文字の選定、作品の構想、完成に至る創作活動について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b：各書体のよさを感じ取り、作品の意図を明確にし、表現を工夫している。 c：作品の意図を明確にするための表現の技能を身に付け表している。 d：互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	観察 ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について　a：書への関心・意欲・態度　　b：書表現の構想と工夫
　　c：創造的な書表現の技能　　d：鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。